

シーン3

「ふぁ……これ体全部入っちゃうなんて、息できるのかな。でも、身体動かせない中でゆるにゆるにいっぱい弄って貰えるのすっごく気持ちよさそう……あ、値段。ゼロが一個多い。だよなー、基本セットの2、3倍以上あるし……」

「上級者ページ、結構種類あるんだ……うう、私のお小遣いじゃ基本セットを月々、一回頼むのが精いっぱいだから……お年玉とかを頼るしかないのかなー。でも、上級者セットは1時間コースなんだ、20分でもしばらく経てなくなるぐらいだったのに、1時間、ど、ど、うなっちゃうんだろ」

「あ、サマーセール？ ポイント5倍……これなら」

「やったー、上級者向けのセットもいくつかセールに入ってる！」

「うわー、イソギンチャクベッドタイプもいいけど、こっちの精液スライムプールセットも凄そう……」

「割引ポイントもあるからどれでも買えるけど」 回分だけだからきちんと選ばないと」

「湯舟に三分の一ぐらいのお湯をはって、触手さんの素を……」

「わ、わ……これは思ったよりも、ごくろり……おっきなバナナの浮き輪ぽい形？ こ、これにまたがるのかな……いろんなところから触手おちんちんが伸びてて、基本セットでもめちゃくちゃにされちゃうのにこんなの……絶対気持ちいい♡」

「お風呂か大きめのビニールプールを用意してくださいって書かれてたのも納得の大きさだね。うちのお風呂場に入ってよかった……ん、ふぁ……私の部屋と違って締め切ってるから匂いがすぐこもって、ん♡」

「あ、目もあるんだ……おっきなのから普通ぐらいのも結構いっぱい。おもちゃなんだからこの目も作り物なんだろうけど……ふぁ♡ 見られてると思うってぞくってきちゃう。どうしよう私どんどん変態になってきてる」

「でも、触手さんこんなエッチな匂いでトロトロだし、せっかく買ったんだから……ちゅ♡ 今日もよろしくね」

「はぁ……はぁ……♡」

（おっきなバナナの触手さんの先端からも粘液びゅっぴゅっぴゅってだしちゃて、まんまおっきなおちんちんだね……♡ ふぁ♡ 私これからおちんちんにまたがってオナニーするんだ♡ ん♡ 私のエッチなところもよだれながしちゃうって……♡）

「そ、それじゃあ……よいしょっと。ひゃ、お尻舐めちゃ、んっ、んあっ♡……前と後ろねっとり舐められて、あ、あ♡」

「はう、んふっ……あん……ハー、ハー……くうっ、ん、んふう……腰うごいちゃう♡
んあ、あ、あ♡ 触手さん最初からとばしすぎい♡……んはあっ……お豆くりくり、ん♡
私、今絶対人に見せられない姿になってる……んふう♡ ふうー、ふあっ♡……はあっ、
あ、あ……♡」

「はあ、はあっ、はっ♡……っこちもシコシコするの？ んふうっ、私が触手さんのオナ
ニー手伝ってるみたいで、触手おちんちんの感触、ぷにぷにで硬くてぬちよぬちよがいや
らしくて……はっ、はあ♡ どんどんドキドキが大きくなっちゃう」

「あ、あ、ああっ♡……んっ、んあ♡……もっど私のおそこるところにシテっ♡……ん、
んっ、んんん♡……はあ、はう……ふー、ふーっ、んっんん♡」

「触手さんも準備できたの♡ それ、いつもの触手チンポ♡ 私のお気に入りのちっ
ちな触手がまとまったやつ♡ はやく、はやくう！ 私のおまんこも準備万端で気持ち
いの待ってるの♡」

「ふあっ、ん♡ 入って……なかがりごり気持ちよくして進んでる♡ んちゅ♡ これと
同じのが中に入っちゃってるんだ♡」

「はあっ、はあっ♡……ん、ふあ♡……あ、あああ♡ ひゃあ♡ そこ、お尻の？……そ
うだったふた、ふたつ穴用って書いてあったあ♡……んああっ、ん、んんっ♡ うそ私の
お尻すんなり入っちゃった！？ んお♡ や、だめ♡ んんあ♡ 変な声、出ちゃう♡」
「ん♡……あ、あ、あー♡……ふぐう♡……んっ、んあっ、はう……っふあ、んんっ
♡！……あ、あっ、あ、あっ、あー♡……触手さんっ♡ しゅごい♡ お尻のなかどん
どん入っちゃってるう♡♡！？」

「あ、あ、触手さんにお尻のっ、入ってるところ、見られてるう♡ ひゃあ♡」

「ハアツ、ハアツ♡!! ふぁッ♡!!……ん! ふう♡! ふうっ♡!! はうっ、んんっ♡……ん♡ お尻の中あ♡ 長いからっ、触手さんが入るところ長いからずりゆずりゆ入口にい♡ こすれるのきもちいい!? これ、ひゃあ♡ これ、だめ♡ こんなの初めてのなのにい、ひいい♡ 気持ちいいの、が、ずっと、んひいい♡ キちゃう!? んあ♡ これすぐイちゃううっ♡♡!!」

「ん♡……あ、あっ、あ、あー♡……ふぐう♡……フウ、フッ!……ん♡ んん♡ ふ……おあっ、んおっ♡ フウ、フッ!……ん♡ んん♡ ふぁっ♡!!……ハアツ、ハアツ♡!! ふぁッ♡!!……ん! ふう♡! ふうっ♡!!」

「お尻とっ、おまんこっ、交互に♡ 中でこすれてえっ♡ んひっ、ん、んん♡……ふー、ふー♡ あ、触手さんもっ、せーし出す準備っ、んあ♡ できてるの……んんっ、いま、触手せーし中に出しやれたらあっ……あ、あ♡……私、どうなっちゃうんだろっ♡ んあ、あ、あ、ああ♡ 出すの出しちゃうの!？」

「身体おもちやみたいにはじゅんで、中にい♡ んん♡ んー♡ んんんー♡ イく、だぶる触手チンポでイクううううっ……♡♡!!」

「はあ、はあっ、ひう……びゅっびゅーって射精しゅごい……んあ♡ おなか一杯に射精しゃれて、私イっちゃったあ♡ ふあ、あ♡」

「はふう、ふぁ……はあ、はあ♡……んっ、え、触手さん……あ、今はちょっと、ダメいま抜かれるとッ……ん、んあああ♡」

「ずりゆりゆりゆって♡ あ、あ♡ ああ♡ 入る時より早く、んあ♡♡ しよくしゅにゆかれちゃっら♡!?! あ、あああ—————」

「んひいつ、ひゃ……はあ、ふああ♡♡ 出しちゃったあ……ぶりゆりゆって、ん♡ お尻からも前から、ほかほかの、触手せーし、噴水みたいに♡」

「ふー、ふー♡♡ でも、すごい気持ちよかった。見られてるってのもとってもエッチなシチュエーションだったし……ん♡ さすが上級者セット……あん♡ うあ、触手さんまだまだあるね……ちゅぱ♡♡ ん♡ どろどろのせーし、とってもエッチで美味しい♡」

「ハア……ハア……この形もたれかかるのにちょうどいい。ん♡ 今度の触手さん？……お、おっきい。さすがに入らない……あ、ぱかって開くんだ。ふあ、なかつぶつぶでいっぱいこりこりの突起もあって……んあ♡♡ ちょっと怖いけど、え、おっぱいもなの!?! ……んああ♡♡ 敏感なところ全部すいついてえ♡」

「ん♡……あ、あっ、あ、あっ……はあ、はあ!?!……あ、んあ♡!?!……フウ、フッ!?!……ん♡♡ んん♡♡ あひいつ♡♡ 中、入れられてるっ、わけじゃないのに♡ クリトリス♡♡ 乳首♡♡ くりくりされて、んは♡」

「ひゃん♡♡ ひゃあっ♡♡ 触手さんに舐められて、あま噛みしやれるの、ん♡♡ んん♡♡ んっ————♡!?!」

「おしっこ出ちゃって♡♡ 飲まれちゃうのも、んあ♡♡ なれちゃった♡♡ ごきゅごきゅ聞こえるのはまだちょっと恥ずかしいけど……んあっ♡♡」

「はあ、はあっ♡……あ、新しい触手さん……んちゅ♡ ん♡……れろれろ、お返しなのかな？ きゃっ、粘液噴き出しながら突き付けちゃって……ちゅぽ♡ こんな臭いの、ん♡……ふぁ♡ 嗅いじゃったら♡……んんっ♡!? こっちにも欲しくなっちゃっう」
「じゅぷっ、じゅぶぶ♡……ふー、ふー♡……んあん♡……んっ♡」

（口の中、触手チンポでいっぱい♡ さっきまで、お、おしりと子宮の前までこれと同じものが入ってたんだ♡ セーしの匂い濃くて、頭の中まで犯されちゃってる気がしちゃう……お、オナニーだから。これも触手オナニーだから。大丈夫、だよね）

「んぶ♡ んお……ん、んん♡……触手セーし、とってもエッチな味♡……もっと、もっとちょうらい♡……ん、んふっ♡……じゅるっ、じゅぶぶ♡……じゅほ、じゅほっ♡」

（お尻舐められて♡ クリトリス剥かれちゃってえ♡ おっぱい吸われながら、喉の奥まで触手チンポで貫かれるのすごい♡ 気持ちいいの溢れちゃって……）

「んお♡ んん♡……じゅぶぶ♡ じゅっぶ♡……ふうー、んうー♡」

（触手チンポ早くなって、来る、セーし♡ 触手さんのどろどろの精液上ってくるのわかつちゃう♡ 射精、私の喉おまんこに種付け射精♡）

「ん、んん♡……んんんっー♡……♡♡♡……!!」

（あちゅい♡ 喉の奥まで入って直接出されてるう!? おなかでくっさい精液あじわっちゃってる♡♡♡!?）

「じゅぷっ、んお……えほっ……はあ、はあっ、はあ♡……しゅごかったあ。頭くらくらで……んちゅ♡ 精液大好きなエッチな子になっちゃった……ちゅぽ♡ れろっ、んふっ♡ ちゅ♡」

「はっ、はあっ♡ んひゃあ♡!! 触手さんの触手チンポで、身体♡ はねるぐらい突き上げてえ♡ んん♡ おなかずんって♡ あひっ♡ あひゃ♡ もっと見て♡ あ♡ ああ♡ こんな普通のオナニーじゃ絶対できない♡ 触手さんオナニーでイっちゃう私を見て♡♡♡!!!」

「んあっ、あああ♡ イっちゃった♡ いろんなところからお汁出して私イっちゃったよ♡ んん♡ あはっ♡ 触手さん♡ セーし出しながらついてくれるの止まらない♡ あんっ♡ 胸の中に挟まってる触手さんもビクビクって♡ 出したい? 出したいんだ♡ いいよ、私の中に出してるみたいに、触手さんのどろっどろのせーしいっぽい出して♡! ちゅ♡」

「ん♡ あ♡ ああ♡ んぶ♡……れる♡ 触手さんの精液浴びてまたイクっっ♡ んあ♡ んん♡ イってるのにまたイって♡ ああ♡ イきっばなしで♡ ああああ♡ ……ん♡……あ、あっ、あ、あ♡……ふぐう♡……フウ、フッ!……ん♡ ん♡ ふあっ♡!……ハアッ、ハアッ♡!!!」

「んひいっ♡ んお♡ ん、ん♡ んーっっ♡♡♡ もう、私い♡ 触手さんの一部になっっちゃう♡ 触手さんにつかれて、もまれて、見られて♡ 嬌声上げるだけのものになっっちゃう♡」

「ひっ♡ ひぐっ♡ またくる♡ 身体壊れるぐらいの気持ちいいのが♡ いひい♡ イグう♡ あ、ああ♡」

「イクうううっっ♡♡♡!!!」

「はあ、はひっ♡……触手さん激ししゅぎい……ん♡ おしりぱっくり空いちやってせーし流ればなしだ♡」

「ふえ♡……あ、まだ、1時間経ってないんだ……え、ちょっとやすま、んあ♡……あ、あっ♡ しょこだめ!?! あああ♡♡♡」

「あ、ああああ♡ あっあ♡ あ♡ あ♡ あ♡ あああ♡ あああ♡ あああ♡ ああ
あっっっ♡♡♡……!!」